

広報

カナダ

毎月1日・15日発行

9.15日号

KANADA Town Monthly Magazine NO.311

いま、すべての
大人のアンテナが
必要です。



まさか、うちの子が…。
気づいたら、迷わず相談を

9月は、「いじめストップ月間」です。

いじめの問題をはじめ、いろいろな問題を解決するために
各相談機関が設置されています。

どんな小さなことでも気になることがあれば、遠慮なくご相
談ください。プライバシーは厳守いたします。

いじめは、わたしたち大人がアンテナを張り、相談をため
らわないことが、最善の解決策です。

24時間いじめ110番 09492-4-3344

田川児童相談所 0947-42-0499

ヤングテレホンいづか 0948-28-7867

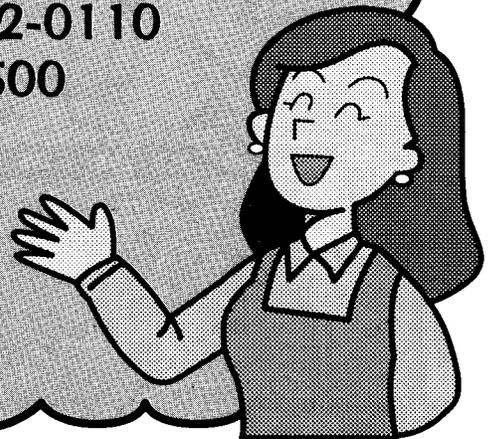
田川警察署少年係 0947-42-0110

心の電話筑豊 0948-29-2500

教育ホットライン 44-3333

家庭(児童)相談所 46-1092

法務局人権相談所 44-1426



秋の全国交通運動

9月21日～30日

0.02秒の衝撃からあなたを守る「命綱」

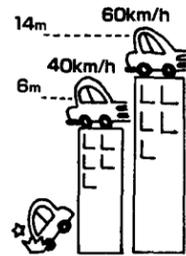
ちゃんとしていますか？ シートベルト

「交通事故？ 私はだいじょうぶ」「ちょっと近くまでだから」と、シートベルトをしないで車を運転している人が多いのではないのでしょうか。ところが、自動車乗車中の事故で亡くなる人の70パーセント以上は、シートベルトを着用していなかった人たちです。また、運転を始めてからほんのわずかの時間に事故に遭っているのです。この人たちが、約4割が助かったというデータさえあります。

いざというときに、あなたの命を救ってくれるシートベルトの効果……あなた本当に知っていますか。

衝撃力とシートベルト

車が固定壁に衝突したときに受ける衝撃は、時速40キロメートルで車を運転していた場合、約6メートルの高さから落ちたのと同じくらいだといわれています。この衝撃力は、体重の約30倍。60キログラムの人で約1.8トンにもなります。人間が耐えることのできる衝撃力は、両腕で50キログラム、両足で100キログラム、これを衝突速度にすると、わずか時速70キロメートルです。これ以上のスピードで衝突した場合は、いくら腕力に自信がある人でも、耐えることはできないのです。



人間が受ける衝撃は、ハンドルやフロントガラス、インストルメントパネルなどに、頭や体をぶつける二次衝突によって起きます。衝突すれば車は停車しますが(一次衝突)、人間はまばたきでさえ0.2秒かかりますのでどうすることもできません。シートベルトはこの衝撃を0.01秒で感じ、二次衝突を防いでくれます。上と下の写真を見比べれば明らかなように、シートベルト着用の有無の結果は歴然としています。



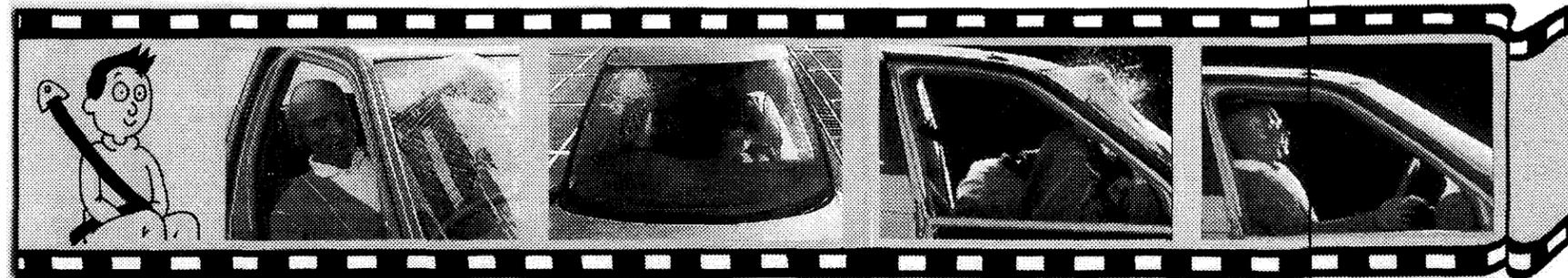
シートベルトの誤った使い方

実際の交通事故や実験の結果からみて、運転者と助手席で同じようにシートベルトをしているにもかかわらず、受ける衝撃やけがの程度が違います。これは、車内形状の違いもありますが、シートベルトを正しく着用しているか、していないかの違いもあります。せっかくシートベルトを着用していても、窮屈だとか面倒だという理由で誤った使い方をしていて死を招く結果になります。



このケースでは、たるみ分だけが体が前に動いてからベルトがロックされるため、衝撃により肋骨やろっ骨の骨折、肺の損傷など、致命的なけがをもたらす場合があります。

車が衝突したとたんには体は前方に滑り込み、ひざは前方の構造物にぶつかり、おなかはベルトで圧迫される恐れがあります。特に、大たい部骨折の危険もあります。



シートベルト着用のポイント

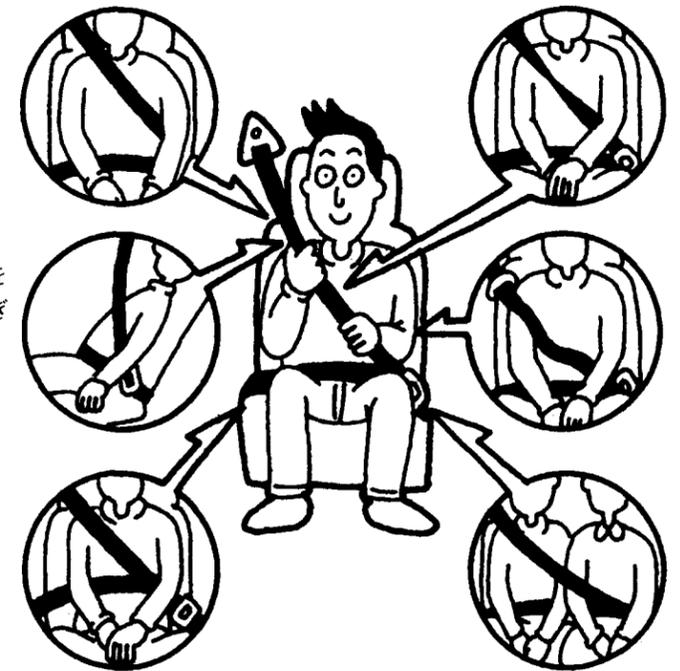
交通事故の衝撃から体を守るためには、シートベルトを正しく着用することが一番です。そのため、シートベルトは取り付け金具やベルト本体など、全体に約3トンの重さがかかっても耐えられるように設計されています。これは、小型の乗用車が3台ぶら下ってももちこたえることのできる強度です。しかし、正しくシートベルトを着用していなければ、その効果は発揮されません。また、いまではエアバックを装備した新型車種が販売されていますが、やはりシートベルトを着用しなくてはエアバックの機能もフルには活用できないのです。

0.02秒の衝撃から、体を守ってくれるシートベルト……

正しく着用することが、交通安全の第一条件です。

肩ベルトが首にかからないように

ベルトをよじらないように



シートを倒しすぎない

ベルトをグリップなどでたるとるませない

腰ベルトを腰骨にかける

複数の人で使わない

バックルはカチッと音がするまで